

KTK

NO. 84

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道 42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

ことしも どうぞ よろしく おねがいいたします



いつも、あたたかいご指導ご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。
昨年は、たくさんの方々にご協力をいただき、「ケアホームいろどり」を開所し、ショートステイも始めることができました。
「学び育った乙訓で暮らし続けたい」との願いの実現に向けて、引き続き頑張りたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いたします。

あらぐさ福祉会 統括事業長 村山 容祥

京都とおきの芸術祭
知事賞受賞!
「巨大あおむしくん」
(ディセンターAグループ)



「ハートの壁かけ」かさねて、かさねて、ムラフック(同Cグループ)は佳作



球体をフェルトで布んだ単純な作品ではありますが、展示方法など目線を変えることで、色々な変化と表情を見せて楽しませてくれる作品として評価いたしました。(審査員評より)

そう てん
創 X えがおの手しごと展

10年目を迎えます

平成 25 年 2 月 17 日(日)~19 日(火)
長岡京市立産業文化会館1階ホール
詳細は付録(別紙)をご覧ください。

「子どもたち それぞれの自立をねがって」

ゆうじさんは、25歳。お兄さんと妹さんの3人きょうだいです。あらぐさでは、刺し子や木工などのじょうをこっています。

お母さんに、ゆうじさんのこれまでのあゆみをおたずねしました。



お母さんの子育て奮戦

自傷・昼夜の逆転

赤ちゃんの時は、「おとなしい、やりやすい子やなあ」と思っていました。その頃は、自閉症という障害も知らず、耳鼻科の治療などに通っていましたが、ある時、ふと、もの音に反応し、耳は聞こえていることがわかりました。

保健センターで勧められて、1歳10カ月

から「ポニーの学校」(就学前の療育施設)に通い、年少から開田保育所に入りました。今では、徐々に落ち着いてきましたが、小さい時は、よく動きまわり、加配の先生がいていました。

就学は、長岡第七小学校の障害児学級に入りました。2年生までは、親の付き添いが条件ということで、毎日授業中、お母さんは別室にいました。3年生の途中から、「親が付き添わないと学校に行けないのは、おかしい」と、頑張ってくれた先生がおられ、付き添いをしなくてもよくなりました。

PTA役員、ゆうじさんの付添が必要である証明をもらって入園した妹さんの保育園の送迎、そして、ゆうじさんの世話・・・とてもたいへんな毎日でした。

ゆうじさんはよく動き回り、屋根伝いに無断で家を出たりもしましたが、近所の方が、家に連れて来てくれました。おかげで、

何時間もいなくなって困るというよりは、あまりありませんでした。

6年生から向日が丘養護学校(現在は支援学校)への通学が始まりました。中学部2年生の時期から、自傷がはじめ、思春期になってからは、壁やガラスを叩くようになり、腕にけがをしたり、生活が昼夜逆転してたいへんになりました。偏食やトイレのこだわりも強く、いろいろなことが気になり、家族の生活も不自由になりましたが、懸命にのりきました。

あらぐさに通い始めてから治療を受けるようになり、最近では、パニックや昼夜逆転も少なくなっ、だいぶ落ち着いてきています。



向日が丘での学校生活

自信と落着き

中学部2年と高等部2年の時に、寄宿舎に入りました。

家では、なんとなく自由に過ごしていましたが、寄宿舎の日課に一生懸命に生きていました。放課後の散歩やしごとなど、寝るまでの時間の過ごし方も充実しました。当初は気をつかって、おどおどした様子も、まわりの人の動きをみて行動できるようになりました。

徐々に自信をつけていったゆうじさんは、自由時間もゆったりと過ごせるようになっていったようです。

「療育」の時間では、細かい作業が好きで、喜んで取り組み、塗の絵の仕上げも、とてもいい感じにしていたそうです。

地域でのくらし

いろいろな制度を利用して

ヘルパーさんとの外出（行動援護・2人付きで月合計32時間）は、お食事に行ったり、

万博公園に出かけたりします。月に1度は、向日が丘の先生を中心に活動している親子音楽サークル「ひだまり」にも参加します。ゆうじさんは、お母さんと一緒よりも、ヘルパーさんと出かける方が落ち着いているようです。

お医者さんへの通院は、お母さんだけでは難しくなり通院介助としてヘルパーさんに来てもらいます。（居宅介護）また、日中一時支援事業を利用して、4時から6時まで若竹苑に行くこともあります。

家族みんなで

これからのこと——そして願い

最近、ゆうじさんは、お父さんが気に入っているみたいで、お父さんの横でよく寝ている

ます。お父さんも、ゆうじさんが側にきてくれることを喜んでいきます。

お兄さんも妹さんも、小さい頃から、ゆうじさんの世話をよくしてくれました。妹さんは、障害児の学童保育「わっしょいクラブ」のボランティアとして活動しています。

いま、家族が5人そろって生活しています。が、「それぞれが、自分の人生をしっかりと歩んでほしい」とお母さんは考えています。

ゆうじさんは、以前、盲腸の手術をしました。また、入院をして奥歯を抜いたこともありました。あの時、「お腹が痛い」「歯が痛い」と訴えてくれたら、早く手当ができて、そんなに苦しまなくてもよかったんじゃないかな、と思っておられます。

苦しいこと、辛いことを訴えるコミュニケーションの力が育ってほしい、そうしたら親も安心です。ゆうじさんが時折みせる「笑い顔」が自慢とおっしゃるお母さんは、ゆうじさんのために、ケアホームの運動にも頑張っておられます。

（取材・前田幸子・真殿尊子）



地域の皆様に愛されて15年

大忙しーあらぐさクッキー工房



新製品へ チャレンジ

今回は、ワークセンターあらぐさの「クッキー工房」についてご紹介します。あらぐさクッキーは、共同作業所時代から15年以上も生産しているロングセラー製品です。

毎日10種類以上のクッキーとパウンドケーキ、フィナンシエなどを生産し、年間の売上は500万円を超えています。今一番人気は「いちごボール」（冬期のみ販売）。ピンク色の苺パウダーをまとったかわいらしさで食べたときの甘酸っぱさがたまらない一品となっています。

あらぐさのクッキーは国産小麦粉や無塩バターなどを使い、添加物をなるべく使わないようにして生産しています。レシピが一つ完成するまでに何回も配合を変えて試

作し、お客様に美味しいと言ってもらえるよう努力しています。もちろんメンバーが担う工程を考えることも大切です。

仕事への根気 ウデは職人技

作業時間は、9時30分から15時30分までの5時間（昼1時間休憩）です。一日クッキー工房で作業をする人と半日で別作業と交代する人がおられ、のべ10人くらいが関わっています。

大きく製造部門と袋詰めラッピング部門に分かれて作業をしています。製造部門では、生地を鉄板に1個ずつ丸めて並べる人、焼けたクッキーをタッパーに片づける人、洗い物担当の人などに分かれて作業しています。一つ一つの生地の大さを揃え、なおかつ均等に並べないと焼けたときに生地同士がくっついてしまうのでとても難しい作業です。しかし、各々の努力と長年の積み重ねでとても上手になってきています。鉄板にきちんと等間隔に並べる人もおられ

ます。

袋詰めラッピング部門では、クッキーの計量をする人、袋詰めする人、ラッピングする人などそれぞれ得意なところをいかして流れ作業で取り組んでいます。お互いに「今日は計量するし、〇〇さんは袋詰めしてな」と役割分担をされています。最近では、仕事内容をメモに書いておくと自分たちでさっさと仕事を始めておられることもあります。

パウンドケーキとフィナンシエは、生地を混ぜるところからメンバーが取り組んでいます。パウンドケーキは、生地を混ぜ合わせるのに1時間半くらいかかるのですが、その間ずっと混ぜ続ける根気と筋力はまさに職人技としか思えません。大量注文をいただいたときはひたすら混ぜ続けています。

注文に応えて お客さんのもとへ

できあがったクッキーは年2回のカタログ販売、役所への販売、地域のまつり等に
出店して販売しています。常設店では、ほ

つとはあとセンター（京都駅ビル）、カフエエポカ（長岡京バンビオ1階）、洋食屋AKIRA（長岡京市立産業文化会館隣）、野々下医院（長岡京市高台）などに置かせていただいています。

また、リピーターのお客様もたくさんおられます。毎年決まった時期に注文をいただける団体さんが増えてきました。「去年美味しかったし、今年も同じように頼むわ」と言っていたいただき、みんな喜んでいます。定期的にクッキーを宅配させていただいているお客様もおられます。基本的にいただいた注文には応えていくという姿勢と、クッキーが好評ということで少しずつ販売先が広がってきていると考えています。



先日、インターネットの店舗の口コミランキングサイト「エキテン」にクッキーが紹介されていることを知りました。お客様の一人が口コミを書いてくださったようであることにうれしいニュースでした。

販路を広げたいと 思っています

少しずつ広がりを見せているクッキー工房ですが、まだまだ閑散期はのんびりしているのもっともっと販路を広げていきたいと考えています。そのためにはさまざまに人知ってもらうことが大切なのでいろいろなつながりを大切に、なおかつ製品のさらなる向上を模索しながらやっていきたいと考えています。

クッキーの ご注文

お受けしております。

商品の見本は、あらぐさホームページをご覧ください。

検索 **あらぐさ福祉会**

☎075-953-9212

乙訓地域は、無料で配達させていただきます。

あらぐさクッキー工房

10月28日(日)、あらぐさ後援会は、障害福祉センターあらぐさにて、「みんなおいでよ あらぐさひろば」を開催しました。

「みんなおいでよ あらぐさひろば」

新しい輪ができました

今回、あらぐさ後援会では地域で活動されている様々な個人、団体の方々に「あらぐさひろば」への参加を呼びかけました。

―「障害を持っている人たち、お年寄りや子供たちにとって住みやすい街は、誰にとってもやさしい街になるはず。そんな思いを実現しようと27年間、奮闘してきた

あらぐさ福祉会。やさしいまちづくりを応援する、地域の個人、サークル、団体が、ワイワイ集まって、みんなでつくる『あらぐさひろば』にご参加下さい―

呼びかけに応えてくれた、諸団体の方々―京都西山ロータリークラブ、長岡京金管五重奏団、「男の居場所」の会、西山短期大学保育科学生、がんばクラブ、げんころうサークル、向日が丘分会、写真家豆塚猛さんが、あらぐさの利用者、ご家族、職員と共に、準備段階ではチラシやポスター配布、当日は、演奏、バザーコーナー、模擬店、遊びコーナー、写真展示、版画展示などで、「あらぐさひろば」を盛り上げていただきました。

当日は、あいにくの雨にもかかわらず、地域のたくさんの方々にご来場いただきました。心に響いた演奏。遊びコーナーでの地域の子どもさんたちの歓声。バザーコーナーの和気あいあいのやりとり。「福引き大会」での笑い声。おでんや焼きそばのいいにおい。じっくり見入った展示コーナー。やさしいまちづくりを応援してくれる人たちの小さな輪ができた1日でした。

(後援会・角根子)



㊤子供さんの人気を集めた「遊びのコーナー」写真を見入る方々
㊦寄付をうけました



㊧懐かしい京都西山ロータリークラブさんから

きょうされん第36次国会請願署名・募金運動にご協力ください

詳細は、付録(別紙)をご覧ください。

ミニバザーと喫茶・交流会

あらぐさ会

光明寺の近くのアトリ工畔で、もみじ祭り
で賑わうこの時期に、恒例となったミニ
バザーと交流会を行いました。

22年はケアホーム建設支援という大き
な目標を持ち、7日間みんなでバザーや喫
茶など頑張りました。23年は待望のケアホ
ームが出来るといふ喜びを胸に、2日間に
わたりミニバザーと共に交流会を持ちまし
た。定例会の時には話せない日頃の思いを
ゆっくり話し合いました。

3回目となった今年は11月28・29日に、
ミニバザーと交流会そして更にリース作り
と盛りだくさんのメニューとなりました。
ミニバザーでは、あらぐさのお母さん達
の元気いっばいの呼び声に足を止めてくだ
さる方も多く、アトラクションとも言うべ
き飴玉すくいでは、上手に山ほどすくう人
が続出。2日目にも「この飴おいしかった
から」と来てくださったりピーターもありま

した。もみじ見物の後、喫茶コーナーに立
ち寄ってくださった方は、温かいコーヒー
とあらぐさクッキーでホッと一息。話し上
手なお母さん達との会話も弾んでいました。
いろんな場面で、お客さん達との暖かな交
流が広がりました。

2階での交流会では、懇談と、希望者は
リース作りをしました。4種類のリースの
中からお気に入りの一つを選び、ドライフ
ラワーをボン

ドで台に止め
ていきます。
だんだん出来
上がっていく
過程に心はワ
クワク。人が
作っているリ
ースの評価も
忘れず「きれ



いね」「かわいく出来たね」と、口も手も
動かしながら、個性豊かなリースがたくさ
ん出来上がりました。昼食には、それぞれ
腕をふるって手作りしていただいたカシ、
黒豆おこわ、煮豆、そしてケーキ、焼菓子
と、どれもおいしくて、お腹も心もいっば
いに満たされました。

あらぐさ会では、更なる生活の場を求め
て、今まで積み重ねてきた活動を、少しす
つでも続けていきたいと考えています。今
回のケアホームに希望したのに入れなかつ
た方、これから先にホームでの生活を考え
ておられる方等、新たなケアホームはまだ
まだ必要です。まずは、「いろいろ」が完
成しホッとしたところですが、これからも、
親同士の楽しい交流会を持ちつつ、地域の
方々にもミニバザー等でのふれあいを通し
て、あらぐさの頑張りを理解していただ
けるよう、今後も地道にアピールを続けてい
けたらと思っています。

(あらぐさ会・大江文子)

